

2 各部局等のFD活動

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先導学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・先導学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 ・一期生の卒業に合わせ、令和6年度末に卒業生アンケートを実施した。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(全科目について授業参観を可としている)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	令和7年7月31日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	25名	
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	47名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
融合系の将来検討会	令和7年5月22日	融合とは何か?創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明し、全員がそれぞれの理解(の違い)を知り、共通項を見出す	40名	
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	50名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	44名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同

研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	49名	新学術創成研究科総合知創出 科学専攻FD研修会合同
先導学類懇談会	令和7年8月29日	教育課程、学生指導等について意見交換	20名	
先導学類懇談会	令和7年10月15日	教育課程、学生指導等について意見交換	19名	
先導学類懇談会	令和7年10月31日	教育課程、学生指導等について意見交換	19名	
先導学類懇談会	令和7年11月19日	教育課程、学生指導等について意見交換	20名	
先導学類懇談会	令和8年1月13日	教育課程、学生指導等について意見交換	21名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を2回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・融合学域設置から5年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・先導学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 観光デザイン学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育を振り返り、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。 観光デザイン学類は、令和7年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。 観光デザイン学類一期生が卒業となることから、令和7年度末に卒業生アンケートを実施する。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☒ その他(アドミッション・ポリシーを一部改訂した)
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(全科目について授業参観を可としている)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	令和7年7月31日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	25名	
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	47名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
融合系の将来検討会	令和7年5月22日	融合とは何か?創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明し、全員がそれぞれの理解(の違い)を知り、共通項を見出す	40名	
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	50名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	44名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同

研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	49名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
観光デザイン学類懇談会	令和7年4月18日	教育課程、学生指導等について意見交換	18名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年7月23日	教育課程、学生指導等について意見交換	21名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年9月8日	教育課程、学生指導等について意見交換	20名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年10月22日	教育課程、学生指導等について意見交換	22名	
観光デザイン学類懇談会	令和7年12月22日	教育課程、学生指導等について意見交換	21名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を2回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・融合学域設置から5年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・観光デザイン学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 ・一期生の卒業に合わせ、令和7年度末に卒業者アンケートを実施した。 今後も学年進捗とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。
融合学域3学類学年進捗に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 スマート創成科学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育を振り返り、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☒ その他(第一期生が卒業する令和8年度学位記伝達式で卒業者アンケートを実施予定)

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(全科目について授業参観を可としている)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第25回融合学域FD研修会	令和7年7月31日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要説明、前年度結果報告など」	25名	
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	47名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
融合系の将来検討会	令和7年5月22日	融合とは何か?創設メンバーから当時の策定の経緯などの説明し、全員がそれぞれの理解(の違い)を知り、共通項を見出す	40名	
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	50名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	44名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	55名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同
研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	49名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻FD研修会合同

スマート創成科学類懇談会	令和7年6月30日	教育課程、学生指導等について意見交換	22名	
スマート創成科学類懇談会	令和7年10月23日	教育課程、学生指導等について意見交換	19名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を2回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・融合学域設置から5年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・スマート創成科学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 今後も学年進捗とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。 スマート創成科学類は、令和8年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。 スマート創成科学類第一期生が卒業となることから、令和8年度末に卒業生アンケートを実施する。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人文学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観については、対面型と授業録画のオンデマンド配信の2タイプで実施した。特に、FD 研修会では、ダイバーシティについて留意した教育実践の重要性の一層の理解を深めることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和6年度の授業評価アンケートおよび卒業生アンケートの結果を見ると、本学類の教育は総じて学生からかなり高く評価され続けていることが分かる。令和7年度も、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにさらに意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。

	☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
人文学類FD 研修会	令和7 年12月10 日	「心理的応急処置」(PFA)の心理教育プログラムの大学院学生の報告から、危機的状況にある対象者への初期的支援について学んだ。	学類長、研究科長、人文学専攻長、FD委員ほか15名	人文学専攻共催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD 研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観・FD研修会については、大学院人間社会環境研究科人文学専攻との共催で、大学院前期課程との一貫教育について検討することができた。特に、FD 研修会を通じて、Students as Partners (SaP) という教育理念動向を認識することができた。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度の授業評価アンケートおよび卒業生アンケートの結果からは、本学類の教育は総じて学生からの高い評価を、長期にわたって維持していることが分かる。R8年度も、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにさらに意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	FD研修会、卒業者アンケートや教務委員会、学生生活委員会の報告で指摘された様々な問題点に焦点を当てながら、学類会議等、全教員が集まる場で問題意識を共有し、学域再編やキャンパス再整備が進んでいくなかで、学生の学修環境をどのように維持・改善していくべきか、どのように進路指導すべきか議論を重ねている。また、特に司法試験・法曹養成と関連する授業科目について、どのように成績評価するかについて学類会議等で意見交換している。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 各教員とも学生に対し、授業の時間外で自発的に学んでおくべきことを指示し、参考文献も適宜指示しているが、アンケート結果などを見る限り、どのようにすれば効果的に学修できるのか、そもそもどこから手を付けたらいいのかコツが掴めないため、予習・復習が疎かになっている学生も少ないように思われる。学類としては、学生が自発的に学修するグループを形成しやすいよう、学生が集まる機会を提供するなど工夫しているが、友人が少ないことなどから、そうしたグループに参加するのに気後れする学生もいると思われる。令和7年度は、グループあるいは個人での法学・政治学の学修プロセスのモデルを構築し、それを授業の中でどのように伝えていくか検討することを課題としたい。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。

	☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
法学類・法務専攻 合同FD研修会	令和7年11月18 日	法学類と法務専攻の連携強化による法曹一貫教育をさらに充実させることを目的に、法学類・法務専攻合同FD研修会を実施した。研修会では、法学類からは、法曹養成プログラムについて、法務専攻からは、司法試験の在学中受験について、それぞれ現状の課題について報告があり、法曹養成に向けた一貫教育をどう整備し、他の進路の学生に対する教育とどうバランスを取るかなどをめぐって議論した。なお、令和7年度は、事前に法学類と法務専攻との相互の授業参観を推奨した。	28名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	法学類と法務専攻の連携強化による法曹一貫教育を充実させると共に、国家公務員総合職に対する学生の関心を喚起し、志望者を増やすことに力を入れている。学類会議ではほぼ毎回、この二つの課題が話題になり、様々な試みがなされている。法科大学院・司法試験に関しては、学生による自主ゼミ開催を支援する取り組みがなされ、国家公務員総合職については、関係する授業で外部から講師を招いて公務員制度について語ってもらうなど、学生の関心の喚起が試みられている。そうした取り組みについて、学類会議を中心に教員間で情報共有が図られている。課題解決に向けて様々な試みがなされているが、学域改組等、組織改編を控えていることもあって、明確な見通しが立っていない課題も少なくない。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケート、卒業者アンケートを見る限り、授業に対する学生の満足度は従来よりも改善したと認められるものの、授業にAIをどう活用するか、学類再編の動きの中で、国際政治など隣接分野にも関心を持つ学生のニーズにどう応えるかなど、新たな課題も明らかになった。R7年度に引き続き、法曹養成一貫教育のための法務専攻との相互理解・連携強化、国家公務員総合職に関する情報共有等が、学類としてのFDの最重要課題であると認識で一致した。一貫教育強化に向けて法学教育の基本的メソッドに関する、法学類・法学研究科合同の研修会を秋に開催すべく、準備を進めている。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 経済学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	4回のFD研修会の他に、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会の企画・運営 ・教員と学生懇談会の企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与している。学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。また、12月のFD研修後に、生成AIの使い方に関するパワーポイントを作成し、アカデミックスキルの教材として、学類全体で共有した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤している。この点で、有意義な運用などをFD研修会などで共有すると共に、問題点を洗い出し、卒業要件であるTOIECスコア到達に向けて検討していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☒ その他(学類会議で、内容を共有した)

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(ローテーション科目での取り扱い内容について報告・共有した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備考
人事院公平審査局長講演会	令和7年6月11日	人事院公平審査局長 役田 平氏を講師に迎えて、あなたの就職活動に「国家公務員」という選択肢をテーマに、就職活動のイメージの説明を受けた。	学生120名 教員3名	
学域GS言語に関する研修会	令和7年8月3日	オンライン教材の提供企業から新しいコンテンツなどの説明。学域GS言語の授業内容について2025年度の担当者が発表し、それについて質疑応答した。	教員9名	
環境金融:炭素クレジット格付け、炭素価格設定、炭素税比較	令和7年11月7日	慶応義塾大学 吉野直行名誉教授による環境分野における経済政策や金融政策の講義と直接対話型の講義の実施をおこない、講義方法事例を確認した。	学生10名 教員4名	
高度専門職人材養成に求められるコンセプトと設計	令和7年11月13日	東京リーガルマインドの反町雄彦氏を講師に迎えて、AI時代に求められる、社会で活躍する人材の教育モデルについての説明を受けた。	教員44名	人間社会学域FD研修
アクティブラーニング フューチャー・デザインを学ぶ	令和7年12月18日	京都先端科学大学 西條辰義特任教授によるフューチャー・デザインの講義を受け、アクティブラーニングの講義方法事例を確認した。	学生24名 教員6名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を

記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	4回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与して学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

経済学類は、昨今の社会事情を反映して、教育の刷新を目的に、社会経営学類に改変予定で、2年次からのゼミの開始など、大きく教育内容を見直す予定である。同時に、学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤もおこなう予定である。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学校教育学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	令和4年度に始まった富山大学との共同教員養成課程は、令和6年度で3年目を迎えた。専門科目の授業が増える中で、例年行っているFD研修会、授業アンケート、教職に関するアンケートに加え、令和6年度は富山大学との合同FD研修会を2回実施した。総評として、富山大学との合同研修会を中心に述べる。 第1回は、令和5年度から課題となっている「斉一授業」をテーマに行った。研修会では両大学で共通したアンケートの結果に基づき、課題を明確にするとともに、評価が高かった授業担当者の授業方法や工夫を共有した。特に、斉一授業における遠隔で受講する学生に対し、どのような能動的な学習支援を提供できるかについて、活発な意見が交わされた。 さらに、第2回の合同研修会では両大学間の学生交流を促進する小旅行型のエクスカージョン活動について議論し、課題を整理した。令和7年度が本課程の完成年度にあたることを踏まえ、エクスカージョンの改善点を具体化した。今後はより効果的な実施方法の検討が必要である。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 全学的に実施されている授業評価アンケートに加え、学類独自の「教職に関する意識調査」も実施している。1、2年次対象は5月のみ実施し、3、4年次対象は5月に加え教育実習後の10月にも実施している。 この調査の目的の一つは、学生の4年間にわたる教職への意欲の推移を明らかにすることである。そして、もう一つの目的は、3、4年次を対象にした調査において、大学の授業と教育実習との関連を学生の視点から検討することである。学生が実習を経験することで、実習前にどのような学びが必要だったのか、また実習後にはどのような学びを求めているのかを明らかにし、カリキュラムや授業改善に役立てることを目的としている。 一つ目の目的に関しては、教職に対する意欲は1年次から4年次まで概ね維持され、特に実習以降に意欲が上がったという意見が多くみられた。一方で、入学時から教職に対する意欲が低い学生がある程度存在し、令和7年度はその学生への具体的なサポートが求められる。 二つ目の目的に関しては、斉一科目における遠隔授業とエクスカージョンの課題が明確になった。前者では、FD研修会で議論したような能動的な学習支援の具体的手法を、遠隔授業の担当者に活用してもらうことで改善を行っていく。そして、後者ではエクスカージョンを実施する推奨期間を設定することが令和7年度の具体的改善策の一つとして挙げられる。さらには、エクスカージョンの設定理念は大変重要なものであるが、学生はカリキュラム外活動であるエクスカージョンに対して消極的である。本活動に積極的な参加を促進させる具体策を検討する必要があり、富山大学と連携して検討していく計画ができています。 次年度は本課程の完成年度にあたるため、引き続きこれまで実施してきたFD活動の充実を図るとともに、富山大学との合同FD研修会を通じて、カリキュラムの強化、深化および効果的な授業実践を支援していきたい。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。

	☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他(特に教育実習に関するアンケート結果の分析および課題に関する研修会を実施した。)
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(FD研究授業を実施し、遠隔授業におけるアクティブラーニングの工夫について協議した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(富山大学との斉一授業において成績分布の差を調査し、担当者内で共有した。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
学校教育学類FD研修会	令和7年8月26日	附属学校園と大学との連携をさらに深めるために		
金沢大学・富山大学共同教員養成課程合同FD研修会	令和7年9月25日	富大・金大の教育実習体制について	両大学参加者30名	兼 人社会学域FD研修会

学校教育学類FD研修授業および協議会	令和8年1月21日	大人数の斉一授業における遠隔授業の工夫	12名	
人社会学域ハラスメント防止研修会	令和8年2月3日	教員のためのリスクマネジメント —ハラスメントの加害者にならないために—	人社会学域から38名参加	研修内容を録画し、オンデマンド配信を実施した。

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	令和7年度末をもって、富山大学との共同教員養成課程の第1期生が卒業した。令和4年度にスタートした同課程では、これまで①遠隔授業における学習効果の向上や②両大学の学生交流(エクスカッション)の充実化など、共同教育課程特有の課題や有効性について、アンケート調査をもとに両大学合同のFD研修会で議論を重ねてきた。 令和7年度のFD活動においては、①遠隔授業における学習効果の向上に関して、1月21日にFD研究授業を実施し、大人数による斉一授業における遠隔授業の工夫について協議を行った。また、②両大学の学生交流(エクスカッション)の充実化については、令和7年度新たに年間2日の推奨日を設定したことで、エクスカッションを実施するユニット数が増加した。 加えて、令和7年度は富山大学との合同FD研修会において、両大学の教育実習の運営体制を主題として取り上げた。これは、継続的に実施している学類独自の「教職への意識調査」調査を踏まえたものである。調査は1・2年次に対しては年1回、実習を経験する3、4年次に対しては実習の前後に各1回(計2回)実施しているもので、教職に対する意識の変化を4年間継続的に把握するとともに、特に3、4年次については、教育実習を通じた意識変容を明らかにすることを目的としている。これまでの調査結果からは、学生が教育実習において、授業力や児童生徒への対応力に対して力不足を感じていることが明らかとなったため、合同FD研修会では両大学の教育実習指導体制を共有しつつ、具体的な指導法について議論を行うこととした。研修を通じて富山大学では事前指導、金沢大学では実習期間中の指導が充実していることがわかり、双方の参考すべき点が明確になった。 その他、2月3日にハラスメント防止研修会として「教員のためのリスクマネジメント」と題して総合相談室の高山知明先生にご講演をいただき、学類教員のハラスメント防止に関する理解と意識改革に努めた。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

例年どおり、アンケート調査に関しては、「授業評価アンケート」および「卒業生アンケート」の全学的調査に加え、学類独自で実施している「教職に対する意識調査」を継続して行う。 FD研修会については、令和8年度も富山大学との合同開催が決定しており、現在、両大学のFD・カリキュラム委員会において研修内容を検討している。令和7年度は、教育実習の運営体制を共有するとともに、具体的な指導法について協議を行った。また、本学が実施したアンケートから、学生が特に力不足を感じる項目として、「授業力」および「児童生徒への対応力」が明らかとなった。富山大学では教育実習における事前指導が、本学においては実習期間中の指導がそれぞれ充実していることから、教員の負担に配慮しつつ、両大学の優れた指導方法を相互に取り入れることで、教育実習体制の改善と学生の教職意識の向上が期待できる。 令和8年度のFD研究授業は、社会科科目グループの山本英輔教授が担当することとなっている。研究テーマは、共同教員養成課程において継続的な検討課題となっている「遠隔授業における学習効果の向上」である。今回の研究授業は山本教授が富山大学で実施する授業を、参加教員が遠隔の受診側である金沢大学(角間キャンパス)において受講・観察する形式で行うことで、遠隔授業の受け手の立場から具体的課題を明確化することを目的として提案されたものである。本研究授業後には協議会を実施する予定であり、遠隔授業の改善に向けた具体的な課題の共有と活発な意見交換が行われることが期待される。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地域創造学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業参観、卒業者アンケート・授業評価アンケート、カリキュラムマップ・ツリー更新などのFD活動を実施した。シラバス点検については、令和5年と同様に令和6年度もFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載はほぼ徹底されていることを確認した。令和4年度から教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立てている。卒業者アンケートの回収率を改善するため、令和5年度と同様にアンケート開始時期の前倒しや複数回のアナウンスを行った。授業参観の増加や授業評価アンケート活用に工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であった。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和6年度の卒業者アンケート(回収率約5割)の結果を分析したところ、学類のDPに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また、学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言えるが、地域創造学をより体系的に学修するための教科書を学類全体で作成することを計画している。この執筆作業において授業評価アンケートの活用を計画している。また、FD委員による授業参観の回数を増加させて、教育方法の改善および地域創造学の教科書における執筆内容の検討を行いたい。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他(各教員が活用した)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☒ その他(FD委員会で分析した結果を共有した)

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(14回実施した)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(各教員で検証した。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
地域創造学類FD研修会	令和7年5月22日	田中教員の実践報告	8名	
地域創造学教科書作成に関する検討会	令和7年8月21日	地域創造学教科書を作成に関して、出版の編集者と編者教員が執筆者の構想案を検討した。	4名	
地域創造学類FD研修会	令和7年11月27日	仙波・元山教員の実践報告	8名	
地域創造学類FD研修会	令和7年12月25日	高原教員の実践報告	8名	
地域創造学教科書作成に関する検討会	令和8年3月10・11日	地域創造学教科書を作成に関して、出版の編集者と執筆者が原稿を検討した。	20名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	授業参観、卒業生アンケート・授業評価アンケート、カリキュラムマップ・ツリー更新、教科書作成などのFD活動を実施した。シラバス点検については、令和6年と同様に令和7年度もFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載は徹底されていることを確認した。令和4年度から教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立てている。卒業生アンケートの回収率を改善するため、令和6年度と同様に

	アンケート開始時期の前倒しや複数回のアナウンスを行った。さらに授業参観の回数を増加させて、独自の取り組みとして地域創造学教科書の作成を開始した。授業評価アンケート活用に工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であった。
--	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度の卒業者アンケート(回収率約6.5割)の結果を分析したところ、学類のDPIに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また、学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言えるが、地域創造学をより体系的に学修するための教科書を学類全体で作成中で令和8年度中に刊行予定である。また、外国語の運用能力について、「あまり高められなかった」が36.84%、「高められなかった」が17.54%なので、改善方法を検討したい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	過去1～2年で急速に発展・普及している生成AIのアカデミックスキルでの取り扱いについて理解と認識を共有することが出来たことは評価できる。また、教職課程について教員側の理解を整理し希望する学生に対するアドバイス面談に対する備えを確立させたことも重要である。卒業者の授業アンケート結果を見ても満足度は全体にかなり高い状態を維持しており概して評価できる水準を保っていると考えられるが、国際学類の教員構成上一部カバーしきれない地域に対する学生の関心にどのように対応すべきかといった課題が残っていることも事実であり、今後の検討と改善が必要と考えられる。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和7年度には教員相互の授業参観を定着させる予定である。FD研修会「歴史総合を考える」を開催予定。これによって、学生は高校で何を学んでくるのか、ということを確認し、授業の向上を図る。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
高校「歴史総合」	令和7年10月20日	星稜高校の池端教諭をお招きし、高校における地歴公民科目の現状に関し、意見交換を行った。	15名	他学類教員にも参加を呼びかけ、国際学類以外に1名参加
アカデミックスキル意見交換会	令和8年3月9日	アカデミックスキルを中心に1年次用科目の問題点に関し、意見交換を行った。	15名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	1年次への指導に関し、2度研修会を行った。また、全教員の授業公開を行った。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

AIを使った不正レポートへの対応に関しては引き続き学類内で情報を交換し、指導法の改善を計る。留学生対応の研修会を行い、問題発生を事前に防ぐ方策、及び、問題を最小限に留める方策を検討する。卒業生の授業アンケート結果を見ると、国際学類の教員構成上一部カバーしきれない領域に関する要望がある。他部署の教員による授業担当要請を検討する。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 数物科学類・数物科学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業は適切におこなわれるようになり、また、予習・復習の教材も考慮した教材の開発が行われた。遠隔、対面および自習用に共用できる教材の改善にFDが貢献したと考えられる。研修会は実施できなかったが、研修会の企画を検討する。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和6年度は事務的なトラブルもあり、アンケート実施数を改善できなかった。回答内容の質に問題があるので、回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。

	☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
--	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
実施なし				

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	予習・復習の教材も考慮した遠隔教材が充実してきた。教材の改善にFDが貢献したと考えられる。AIに対応した課題作成やレポート評価についての研修会を開きたかったが、開催できなかった。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度は2月の初めから卒業時アンケートにアクセス可能になったので、修論発表会で利用できるようになった。今後も回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていきたい。研修会等の企画についても、学類長や教務委員とコンタクトを取りながら、教員の教育能力につながるような取組みを行っていきたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 物質化学類・物質化学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	令和6年度は月例会議後において授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。FD研修会を実施し、卒業者のアンケートと指導教員のアンケート結果から、授業の改善・教育効果の向上を図った。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 教育改善委員会およびFD研修会において、アンケート結果をもとに教員間でディスカッションを行い、教育活動における課題や改善点を明らかにする。特に、不十分であった点や学生の期待とのズレ(ミスマッチ)を把握し、今後の教育方針の策定に活かすこととする。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☒ その他(学類ホームページに記載した)
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。

	☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
--	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(教務委員と連携し評価基準の明確化、および適正な評価の付与を周知した。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第24回FD研修会	令和7年11月11日	教員の講義改善に関する報告と議論	20名	応用化学コアプログラム
令和7年度第1回教育改善委員会	令和7年7月8日	卒業研究自己診断アンケート集計結果の分析、今後のFD活動の方針と計画についての議論	6名	応用化学コアプログラム

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	令和7年度は、7月の月例会議後に授業評価の方法や改善方策について継続的に協議し、FD活動に対する意識の共有と改善の推進に努めた。あわせてFD研修会を実施し、講義の改善や課題について、教員で議論を行った。加えて、卒業生アンケートおよび指導教員アンケートの結果を踏まえて、授業改善と教育効果の向上を図った。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者アンケートにおいては、令和7年度は全体として高い評価が得られた。特に「積極的な取組み」は過去10年の結果を見ても上昇基調であり、研究活動そのものへの主体的な姿勢が強まっていることが示唆される。ただ、研究活動には積極的に取り組んでも、まとめの段階で力を出し切れていない学生が一定数存在する可能性がある結果も得られているため、来年度は卒業研究指導において学生と十分にコミュニケーションを取り、力を引き出す指導を行っていく方針としたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 機械工学類・機械科学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの基本項目の英文入力に関しては、すべての科目で実施されており、問題無い。成績評価基準やActive Learningに関する記載に関してはまだ改善の余地があるため、機械工学類の教員間で共有し、令和7年度以降にこれらの英文表記も含め改善を働きかける。教員相互の授業参観に関して、先端テクノロジー概論Aでの機械工学類担当の2回を利用し、1回の講義で6名の教員が学生の興味・関心を惹く機械工学分野の魅力ある内容を吟味し、教員も相互参観しながら講義を実施している。またこの講義を受講した学生からの感想等を機械工学類の全教員と共有し、学生の現状での興味・関心を把握し、機械工学類での教育研究活動に活かしている。FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目は例年通り概ね実施された。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 卒業・修了者に対するアンケートの集計結果に関して、令和5年度、令和6年度ともに回答率70～80%となり、機械工学類・機械科学専攻のDP達成度自己評価の傾向が見えてきた。授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートの集計結果を機械工学類会議で教員に周知・共有し、分析結果等を各教員やカリキュラム検討委員会での教育方法やカリキュラム改善のための参考資料として供し、より良い授業への改善を働きかける。また令和7年度においては、卒業・修了者に対するアンケートの回答率のさらなる向上をはかる。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。(科目名:機械工学概論A, 機械工学設計製図) ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
理工3学類 合同FD研修会	令和8年3月17日	大学の国際化推進と安全保障貿易管理	54名	先端科学・社会共創推進機構(FSSI)と連携し、フロンティア工学類、電子情報通信学類と合同開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握に関しては、アンケート結果も踏まえて5月の学類会議で教員に共有することで実施した。アンケート結果から、ここ数年の間に卒業した学生のDP達成度には同じような傾向が見られることから、現状のDP、CP、APIには関係性が見られた。教育方法改善の資料として今後利用していくことができると考えられる。シラバスの基本項目の英文入力に関しては、すべての科目で実施されており、問題無い。成績評価基準やActive Learningに関する記載に関してはまだ改善の余地があり、機械工学類の教員間で共有し、令和7年度ではこれらの英文表記も含め改善を働きかけた。教員相互の授業参観に関して、機械工学概論A等で、学生の興味・関心を惹く基礎科目と機械工学分野の関連について魅力ある内容を吟味し、教員も相互参観しながら講義を実施している。FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目は例年通り概ね実施された。令和7年度のFD研修会は機械工学類が担当し、大学教員・職員を対象として安全保障貿易管理に関する制度概要の理解と、該非判定手順の習得を目標とする内容の講演を実施した。これによって近年の国際情勢下での教育や研究に従事する際に必要となる輸出管理に対する意識を高めた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者に対するアンケートの集計結果に関して、令和5年度、令和6年度ともに回答率70-80%であり、令和7年度はさらに回答率が上がり95%となった。機械工学類・機械科学専攻のDP達成度自己評価の傾向は、ここ数年の間に卒業した学生のDP達成度には同じような傾向が見られた。機械工学類の学生に関しては、数学や物理などの基礎科目に関するDP達成度自己評価は90%以上が概ね達成していると実感している結果となった。しかし専門科目になると、DP達成度自己評価は70%程度となり、機械工学に関する専門科目の習得に自信がない学生が30%程度いることが把握できた。大学院に進学して機械科学専攻を修了した学生に関しては、専門科目の習得に関してDP達成度自己評価は90%以上となり、現状の機械工学類・機械科学専攻におけるカリキュラムでは、6年間の教育によって多くの学生が自信を持って社会に出ている状況を把握することができた。これらの結果は中・長期的に学類のカリキュラム編成を考えていく際に参考とする。

令和8年度は、授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートの集計結果を機械工学類会議で教員に周知・共有し、分析結果等を各教員やカリキュラム検討委員会での教育方法やカリキュラム改善のための参考資料として供し、より良い授業への改善を働きかける予定である。また卒業・修了者に対するアンケートの回答率については引き続き高い回答率の維持を目指す。一方で博士後期課程修了者のアンケート回答率が低いので回答率の向上をはかる。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 フロンティア工学類・フロンティア工学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行った。これまでに明らかとなった問題点を踏まえてカリキュラムの修正を行い、令和7年度入学者から新カリキュラムとして適用するための準備を整えるなど、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行った。学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用に関するFD研修会を行い、学生間ピアレビューが実験レポートのクオリティや自学効果の向上に対して与える効果、本取り組みの持つメリット・デメリットを交えた特徴について紹介した。また、学類コロキウムにおいて学生向けの講演会、ポスター発表及び展示による研究室紹介を行い、学類選択やコア選択のための教育内容について紹介した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 令和7年度新入者より学類のカリキュラムが変更されるため、カリキュラム変更に伴う教育効果等について検証する。また、大学院についても令和6年度のアンケート結果を踏まえて、引き続きカリキュラムの見直しを行っていく。特に社会を先導する人材を育成するために、各授業科目の内容を見直し、異分野融合を着実に進める。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
3学類合同FD研修会	令和8年3月17日	大学の国際化推進と安全保障貿易管理	50名	フロンティア工学類 機械工学類 電子情報通信学類合同開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行った。令和7年度入学者から新カリキュラムが適用されたため、カリキュラム変更の効果を検証するための準備など、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行った。「大学の国際化推進と安全保障貿易管理」というタイトルでFD研修会を行い、安全保障輸出管理制度についての説明を通じ、研究者としての履行の意義や社会的責任についての理解を深めるとともに、輸出管理手続きのうちで最も重要な「該非判定」について、その手続きのポイントについても紹介した。また、ポスター発表及び展示による研究室紹介を行い、学類選択やコア選択のための教育内容について紹介した。さらには、博士後期学生を教員全員で指導する機会とするため、マテリアルコアにおいて化学工学博士人材育成セミナー(博士後期学生および進学予定の学生の研究紹介)を開催した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度新入生より学類のカリキュラムが変更されたため、カリキュラム変更に伴う専門教育効果等についての検証を開始する。また、大学院についてもアンケート結果を踏まえて、引き続きカリキュラムの見直しを行っていく。特に社会を先導する人材を育成するために、各授業科目の内容を見直し、異分野融合を着実に進める。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 電子情報通信学類・電子情報通信学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	・シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。 ・授業科目の英語化について点検した。 ・教員相互の授業参観としてモデル授業を実施した。 ・成績評価基準の記載を点検し、成績分布に問題がないことを確認し、学類で共有した。 ・理工3学類合同のFD研修会を実施した。 ・教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。 以上より、令和6年度のFD活動は概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		独自に作成したFD活動のためのLMSコースを活用し、各教員が授業評価アンケートの結果の評価および次の目標を設定することにより、授業改善を行った。 この取り組みを令和7年度も継続する。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
理工3学類合同FD研修会	令和8年3月17日	大学の国際化推進と安全保障貿易管理	約50名	機械工学類、フロンティア工学類と合同開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	シラバスの点検や英語化率の向上に向けた取り組みを実施し、令和6年度以上にその内容の充実に努めたほか、授業評価アンケートの実施・活用をはじめとする活動を滞りなく行うことができた。理工3学類合同FD研修会では、「大学の国際化推進と安全保障貿易管理」について外部の講師を招いての研修を開催し、特に近年求められる「研究セキュリティ、インテグリティの確保、安全保障輸出管理」について参加者の知識向上に資する機会を提供できた。教員相互の授業参観について具体的な活動の充実に課題が残っており、次年度以降の活動に注力していく必要がある。以上のことから、令和7年度のFD活動は概ね評価できる。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度は卒業・修了者アンケートの実施に際して、回答率の向上を図るために該当者への定期的な連絡を行うなどの取り組みを強化した結果、前年度に比べて回答率が飛躍的に向上した。令和8年度は前年度の回答率の水準を維持するために、同様のケアを怠らないことに注意する。また、学類が独自に管理するFD活動のためのLMSコースの活用を継続し、各教員による授業評価アンケート結果に対する評価と目標設定を行うことで、授業改善に向けた取り組みを行っていく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	FDシンポジウムでは、教育研究の場においてAIの活用が進む中、AIリテラシーを高める教育実践について、実例を交えつつ、国際基幹教育院外国語教育系の山村公恵講師に、講演いただいた。また、本学類で独自に行っている卒業生によるアンケートから選出された優秀教員による授業方法について、話題提供および意見交換を行い、それぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。JABEE継続審査において、土木防災・環境都市コースについて全科目の点検を行い、審査において高い評価を得ることができた。 以上の活動から、「大いに評価できる」FD活動であったと評価した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 卒業生、修了者への達成度アンケートから、地球社会基盤学類の全3コースともに、DP達成度は、全ての項目に対して、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超えており、カリキュラムが掲げる教育目標を達成できていると考えられる。また、学類内独自に行った卒業アンケートでは、卒業研究における研究室配属の方法について、改善を求める声も一部に確認された。すべての学生が納得する方法は困難であると認識しつつも、更なる改善の必要性を感じた。令和7年度は、土木防災コースおよび環境都市コースにおいてはJABEE受審があるため、すべての科目について、過去2年分のリフレクションペーパーも含む科目ごとの教育内容を総括することになる。また、本学類では学類FDシンポジウムを毎年開催し、各教員の教育能力の底上げを行う活動をしており、今後も継続していく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
地球社会基盤学類 FDシンポジウム	令和7年10月31日	博士人材育成をテーマに、2教員による実践例、教員アンケートの分析、意見交換、優秀教員(2教授)による話題提供、JABEE審査活動報告	学類長、専攻長、FD委員 ほか18名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	FDシンポジウムでは、博士人材育成をテーマに、博士人材を多く輩出している2教員の実例を交えつつ、教員アンケートによる課題共有や解決についての意見交換を行い、各教員の授業改善につながる活動を行った。 JABEE認定継続審査では各教員が教育活動を点検、見直しした結果、審査において高い評価を得て継続認定となった。以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者の達成度アンケートから、地球社会基盤学類の全3コースともに、DP達成度は、全ての項目に対し、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超え、カリキュラムが掲げる教育目標を達成できたと考えられる。学類内独自に行った卒業アンケートでは総じてカリキュラムに高評価な意見が多かったものの、研究室配属の方法や卒業研究について改善意見が一部に挙げられ、更なる改善が必要と感じる。また土木防災コースおよび環境都市コースにおいては、JABEE継続審査において全科目の点検を行い審査では高い評価を得ることができたが、更なるPDCAによる教育改善を進める。併せて、毎年開催する学類FDシンポジウムにおいて引き続き、各教員の教育能力の底上げを行うことを目的に活動を進める。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 生命理工学類・生命理工学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケートについて、回答率を上げるため、それぞれの教員から学生への働きかけを学類会議で周知した。また、授業評価アンケートについて学類会議で意見交換を行い、授業内容及び指導法の改善を通じて学生に積極的な学習姿勢を涵養する機会にもできる、という改善案が出た。実験実習科目から専門的知識の定着を図る学類であるため、レポートの作成法や学生実習の実施方法について取り組みを継続している。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケートの内容について、学類独自に精査できているわけではない。具体的な課題の発見や新たな授業方法の立案につなげる改善が必要であると考えられた。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
開催なし				

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	卒業・修了者アンケートではDP 達成度自己評価 および学生生活満足度 について90%以上の学生が「十分達成している・ある程度達成している」「満足している・やや満足している」と回答している。学生からの評価が得られている反面、具体的な改善点を見出すための機会としては活用できていないと捉えることもできる。それぞれの教員による努力は継続するとして、学類として組織的な取り組みを見つけて設定することが、今後の課題である。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取り組みの計画について、具体的に記載してください。

実験実習科目から専門的知識の定着を図る学類であるため、2025年度理工・自然研FDシンポジウムで紹介されていたデンマーク・マクマスター大学の学生の例のように、必要な基礎知識を習得する、という意識を持って座学の授業に主体的に取り組む環境の構築へ向けたカリキュラム立案や授業方法の改善が必要である。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	・医学教育分野評価基準の1年毎の自己点検の作業を行い、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告し、本学医学類HP上でも令和6年度年次報告書を公開している。 ・令和6年度には医学系FD研修会を計11回実施した。医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと金沢学術アカデミーと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年次の各学年の代表者が同委員会に参画した。 ・カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」を踏まえたカリキュラム改革を行った。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 医学教育IR室、カリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、教育カリキュラムの改善に引き続き取り組む。 医学類FD委員会は、医療人材教育研究センターや金沢学術アカデミーと連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(1年次「早期医療体験」および4～5年次診療参加型臨床実習のまとめにおいて、実習担当者による授業参観の機会を設け、1年次では医学類の実習担当者、臨床実習のまとめでは薬学類の実習担当教員が参観した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第1回医学系FD研修会	令和7年4月	金沢大学医学類の教育理念・3つのポリシー	27名	
第2回医学系FD研修会	令和7年5月14日	医学類カリキュラムについて	101名	
第3回医学系FD研修会	令和7年6月6日	隠岐での実践、総合診療医養成 ゲームチェンジャーとなるために	50名	
第4回医学系FD研修会	令和7年7月14日	PostCC-OSCEにおけるIRT導入 課題数削減と評価者の列間・課題間移動	35名	
第5回医学系FD研修会	令和7年9月12日	ハラスメントの防止に向けて	18名	
第6回医学系FD研修会	令和7年11月28日	チーム医療マインドの醸成に向けた多職種連携教育の展開	26名	
第7回医学系FD研修会	令和7年12月5日	薬学生から始める！在宅医療と多職種連携の実践的教育プログラム	17名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6―1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	・医学教育分野評価基準を1年毎に自己点検し、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告するとともに、本学医学類HP上でも2025年度年次報告書を公開している。 ・2025年度には医学系FD研修会を7回実施した。医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと金沢学術アカデミーと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年の各学年の代表者が同委員会に参画した。

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6―2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

医学教育IR室、カリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、教育カリキュラムの改善に引き続き取り組む。 医学類FD委員会は、医療人材教育研究センターや金沢学術アカデミーと連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 薬学類(創薬科学類)・創薬科学専攻・薬学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	金沢大学の方針に従ったFD活動を令和6年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。薬学系FD研修会では「Using ChatGPT and AI to Accelerate and Transform your Learning and Research」と題し、金沢大学薬学Gary Ross先生がChatGPTについて講演を行った。 ChatGPTをはじめとするAI技術を、薬学教育・研究に取り入れる参考事例が紹介された。教育分野においては、生成AIを適切に活用することで、学修効果が上がり、また教職員の業務効率化を図ることができるなどの効果が期待される等、薬学教育の在り方等を考える機会となった。これらの活動を通して教育の改善・充実、教員の能力及び資質向上に繋げることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。 アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和7年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。

	☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度薬学系新任教員 教務関連研修会	令和7年11月26日	教務全般の説明(カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルの運用、授業アンケート、アドバイザー制度)	薬学学類長、学類教務・学生生活委員長、大学院教務委員長、他7名	国際基幹教育院の協力を得た。
令和7年度薬学系(学類・大学院研究教育)FD研修会	令和8年3月2日	テーマ:「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」動画視聴、課題。 課題①:将来的に試行可能と考えられる分野横断型教育の取り組み案の提案。 課題②:アンケート	薬学教員50名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	金沢大学の方針に従ったFD活動を令和7年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。薬学系FD研修会では「大学院における分野横断型教育の意義と価値～ラボローテーションを中心に考える～」動画視聴、視聴後は課題「将来的に試行可能と考えられる分野横断型教育の取り組み案の提案」、「アンケート」の提出を行った。動画内容の理解深化のみならず、各教員が自らの教育実践と結びつけて考察する機会を提供し、教育向上への意識醸成を図った。

--	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が94.6%という高い結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和8年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取組みを行う。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬科学類

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する、シラバスの確認)については概ね実施できていた。また、2月にFD研修会を開催し、「医薬科学類独自の成績基準について」と題して、合同開講科目における成績評価のありかたについて意見交換を行った。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 前年度に引き続き、講義に関する提案(自由記載含む)が授業評価アンケート内容に含まれている場合、その内容について学類会議で共有し、必要に応じてその内容を担当教員に照会し、説得力のある提案については改善を検討するなど、今後、講義のあり方に実際に反映されるよう取り組みを行う。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(複数の教員が担当する科目において、オンライン講義を相互に視聴できるようにした。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度第1回医薬科学類FD研修会	令和8年2月20日	・医薬科学類独自の成績基準について ・スチューデント・アシスタント(SA)について	15名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	教育に関するFDとして、授業評価アンケート結果の共有、シラバス記載内容の確認、成績評価分布の共有等を概ね実施できた。また、2月にFD研修会を開催し、合同開講科目における医薬科学類学生の成績分布及び他学類との成績差を踏まえ、成績評価基準のあり方について意見交換を行った。さらに、CLA制度廃止後のスチューデント・アシスタント(SA)制度の活用可能性、低学年学生の学修支援、研究室配属後の学生の意欲・モチベーション維持についても議論し、今後の教育支援体制を検討する上で有益な情報共有を行った。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度に引き続き、授業評価アンケートの自由記載等に含まれる講義改善に関する提案を学類会議等で共有し、必要に応じて担当教員に照会することで、講義内容・授業方法の改善に反映させる。また、合同開講科目における成績分布及び学類間の成績差について継続的に把握し、成績評価基準や到達目標の妥当性について必要に応じて検討を行う。さらに、低学年学生の専門科目への接続支援や、研究室配属後の学修・研究意欲の維持に関する課題について、SA制度の活用可能性を含めて検討し、学生支援体制の改善につなげる。
--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 保健学類・保健学専攻

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和6年度は保健学系独自に企画したFD研修会を、「セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!」「発達障害について―学生の苦手さを知る―」「高大接続の足がかり―高校現場の視点から―」を演題として、合計3回実施した。 第1回「セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!」では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の影響が残る中、ストレスへの解決の糸口を得た。第2回「発達障害について―学生の苦手さを知る―」では、学生の心の苦しさへの理解を深め、関わりのある方を知る機会となった。第3回「高大接続の足がかり―高校現場の視点から―」では、現役の公立高等学校の教諭を招くことで、高校での教育の状況が分かり、高大接続の現状や展望についてディスカッションできた。 以上のように、これまでになかった企画であり、多くの教職員が参加した。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内し、参加を促すことで、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。 また、教育活動および研究活動のさらなる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型公的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行った。これらの活動は大いに評価できると判断した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和7年度も引き続き授業担当教員にフィードバックし、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力の向上のための取り組みを進めていきたい。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
-----	-------------------------------

① 授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
② 卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度第1回保健学系FD研修会	令和7年8月6日(水)	障害者との接し方 ー障害者スポーツ指導の経験からー	保健学類長、 FD委員長ほか43名	
令和7年度第2回保健学系FD研修会	令和7年10月1日(水)	ハラスメントの防止 ーハラスメントのない職場を目指してー	保健学類長、 FD委員長ほか71名	
令和7年度第3回保健学系FD研修会	令和7年12月3日(水)	「生成AIの講義利用」について	保健学類長、 FD委員長ほか49名	
令和7年度第1回看護科学領域FD研修会	令和7年9月1日(月)	生成AI時代における看護教育ー教員として知っておくべき活用方法、注意点、課題ー	看護科学領域長、FD委員長ほか27名	看護科学領域FD講演会
令和7年度第2回看護科学領域FD研修会	令和7年11月14日(月)	Computer-Based Testingの看護教育への導入と課題	看護科学領域長、FD委員長ほか28名	看護科学領域FD講演会

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
------------	----

4	令和7年度は保健学系独自に企画したFD研修会を、「障害者との接し方ー障害者スポーツ指導の経験からー」「ハラスメントの防止ーハラスメントのない職場を目指してー」「生成AIの講義利用について」を演題として、合計3回実施した。 第1回「障害者との接し方ー障害者スポーツ指導の経験からー」では、パラリンピックのアスリートを実際に指導する講師を招いた。アイマスクの着用により視覚からの情報が得られなくなることで、伝えることの難しさ、理解することの難しさを体験した。この体験により、障害のある学生へのコミュニケーションや周囲の環境に対する配慮への重要性や工夫の必要性についてあらためて理解した。 第2回「ハラスメントの防止ーハラスメントのない職場を目指してー」では、教職員が陥りやすいハラスメントトラブルを再確認できたとともに、質疑応答では回避する方法について教職員の間で情報共有ができた。 第3回「生成AIの講義利用について」では、学生による生成AIの利用例を学生2名が発表し、学生がどのように利用しているのか共有できた。また、専門家による最新の生成AI事情も確認できた。 以上のように、これまでにない企画であり、多くの教職員が参加した。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことで、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。 また、教育活動および研究活動のさらなる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型公的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行った。これらの活動は大いに評価できると判断した。
---	---

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6ー2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和8年度も引き続き授業担当教員へフィードバックを行い、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、ハラスメントが確実に予防されるための企画や、学生の抑うつ・自死予防のための企画に取り組みたい。後者については、SNSによる学生への心理面への影響を包含した取り組みとしたい。さらに、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力向上のための取り組みを推進する予定である。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人間社会環境研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	令和6年度は2回のFD研修会を実施した。1回目はデータプライバシーをテーマとし、データ活用とプライバシー保護をめぐる世界的な潮流と各分野での状況について情報共有をすることができ、令和8年4月に予定している「データプライバシーエキスパート養成プログラム」の開始に向けた準備として有益であった。2回目は大学院進学者を増やす方策をテーマとし、大学院進学率の高い大学の事例報告から、学士課程の学生の大学院進学に関する意識を変え、早い段階から進学へのモチベーションを持たせることが重要であること等を学び、今後の研究科での取り組みのヒントを得ることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和6年度の授業評価アンケートと卒業・修了者アンケートの集計結果は概ね良好といえるが、学生の評価のやや低い項目については情報共有の上、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、院生研究室の形態などを順次変更していく途上にあるが、その際に卒業・修了者に対するアンケートや大学院学生との懇談会などで示される学生からの意見も参考としていく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した(人文学専攻)。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(特に実施していない。)

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和7年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	令和7年11月13日	外部講師を招き、高度専門職人材養成に求められる教育コンセプトと具体的な設計手法について学んだ。	41名	人間社会学域、経済学類と共催
令和7年度第2回人間社会環境研究科FD研修会	令和8年2月3日	総合相談室総括相談員を招き、教員がハラスメントの加害者にならないためのリスクマネジメントについて学んだ。	38名	人間社会学域、学校教育学類、地域創造学類と共催
令和7年度第3回人間社会環境研究科FD研修会	令和8年2月20日	外部講師を招き、人文系大学院におけるデジタル教育の事例を学び、本研究科での取り組み方を考えた。	15名	
令和7年度第4回人間社会環境研究科FD研修会	令和8年3月17日	外部講師3名による講演を中心に、人間行動データの収集・管理・利活用に伴う課題や可能性について考えた。	50名	人間社会環境研究科Xプログラム主催「第2回未来知融合シンポジウム」をFD研修会として兼ねた。

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	令和7年度は4回のFD研修会を実施した。第1回は外部講師を招いた講演で、いわゆる「土業」を中心とする高度専門職人材に求められる能力と学生の意識について現状を把握することができた。第2回は総合相談室担当者の話題提供により、教員がハラスメント加害者にならないための注意点が確認できた。第3回は本研究科とも連携関係にある大学の人文系大学院におけるデジタル教育の事例を学び、本研究科での今後の取り組みに示唆を得ることができた。第4回のシンポジウムでは、人間行動データの収集・管理・利活用における課題や今後の可能性について、講演の具体的な事例から学び、認識を深めることができ、令和8年4月の「データプライバシーエキスパート養成プログラム」開始に向けた準備として有益であった。このように、全般的にはFD活動を活発に行うことができた年度であったが、その一方で、本研究科では特に博士後期課程において標準修了年限を超えて在籍する学生の数が多く、学生の論文執筆に対する指導の面での課題が多いが、それを解決するためのFD活動は十分に行うことができなかった。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度の授業評価アンケートと卒業・修了者アンケートの集計結果は概ね良好といえるが、学生の評価のやや低い項目については情報共有の上、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、本研究科で毎年度実施している「大学院生と研究科長との懇談会」および「研究カンファレンス（年2回）」において大学院学生の意見を直接拾うことにより、教育方法やカリキュラムの改善に資する予定である。令和8年度は、特に博士後期課程における論文執筆指導の面で、教員に対するFD活動を積極的に行うことが課題となる。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬保健学総合研究科(修士課程・医学博士課程)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	FD研修会(医学系)を毎月対面開催することができた。令和5年度より医学類FD委員会と医療人材教育研究センターと連携し、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、全学的な方針に基づき、Webにより効率的な実施とすることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに学修等に満足している結果が得られた。 医学博士課程における2点の継続課題について、①複数指導体制について、令和6年度においても、6割の学生が十分に認識していない結果であった。しかし令和6年度から学生面談を実施したことにより、複数指導体制が学生本人に認識されるようになると考えられる。②単位の修得方法、時期を分かりやすく手引きに明示することにより、分かりにくいという学生の意見に減少傾向が見られるが、継続して実施する。 修士課程においては、対面授業が可能となり、アンケートでは、Q2Iにおいて90%以上が学びたいと考えていたことが学べたもしくはどちらかといえば学べたという回答結果だった。またQ14では90%以上が本専攻で学んだことに満足しているもしくはやや満足しているとの回答結果であった。概ね良好だと考えられるが、令和7年度はさらに改善すべき点を検討する。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
医学系FD研修会	毎月不定期計7回 (8, 10, 1~3月を除く)	カリキュラムとポリシー、ハラスメントの防止、多職種連携教育等	20~100名	医学類と合同

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	FD研修会(医学系)を対面開催することができた。令和6年度より医学類FD委員会と医療人材教育研究センターと連携し、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、全学的な方針に基づき、Webにより効率的な実施とすることができた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに学修等に満足している結果が得られた。
 単位の修得方法、時期が分かりにくいという学生の意見には、分かりやすく手引きに明示することにより、改善していく。
 修士課程においても令和8年度はさらに改善すべき点を検討していく。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先進予防医学研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、最先端のオミクス解析技術とその応用に関する情報を共有し、今後の教育・研究活動に資する新たな視点や連携の可能性を得ることができた。授業評価アンケート結果はすべてWebで公開し、担当教員が確認できるように適切に整備した。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業や教育計画、カリキュラムに対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義及び実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容及び教育方法の改善に取り組む。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	--

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(複数教員が担当する科目において、オンライン講義を相互視聴できるようにした。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
金沢大学・千葉大学・長崎大学 合同先進予防医学共同専攻 FD講演会	令和7年12月1日	金沢大学が主催で、共同専攻合同のFD講演会『実施した多様性・障害者権利条約時代の「心理社会的支援」』をWeb開催した。	3大学の担当教員、学生の計89名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、精神保健・心理社会的支援の現状に関する情報を共有し、今後の教育・研究活動に資する新たな視点や連携の可能性を得ることができた。授業評価アンケート結果はすべてWebで公開し、担当教員が確認できるように適切に整備した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

引き続き、授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業や教育計画、カリキュラムに対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 新学術創成研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合科学共同専攻のFD研修会はJAISTとの合同開催だが、令和6年度は、対面での実施により、率直かつ多様な意見交換が活発に行われた。また、各専攻で抱えている関心の高い課題を研修会のテーマに設定したこともあり、教員間で多くの質問や情報共有、検討が行われ、有意義な場を設けることができた。 また、標準修業年限内で学位取得を目指すため、教員と学生との間で学位取得までの研究計画の策定について「新学術創成研究科の研究指導に関する目安」を定め、令和7年度から運用を開始することとした。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画
		令和7年度も引き続き、各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。令和7年度は、総合知創出科学専攻が加わったことから、FD活動の実施体制等を検討し進めていく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。

	☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(融合科学共同専攻では、異分野「超」体験セッションⅠ(博士前期課程)、Ⅱ(博士後期課程)の授業を、専任教員に遠隔配信にて公開した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第26回融合学域FD研修会	令和7年9月4日	「研究者倫理について」	26名	融合学域と合同開催
産学連携、研究推進に関する制度説明	令和7年6月12日	共同研究制度改正等	25名	融合学域と合同開催
ハラスメント研修会	令和7年12月11日	「ハラスメントの防止ーハラスメントのない大学を目指してー」	27名	融合学域と合同開催
研究シーズ紹介	令和8年1月8日	融合研究域教員の研究紹介	34名	融合学域と合同開催
研究シーズ紹介	令和8年2月12日	融合研究域教員の研究紹介	33名	融合学域と合同開催
研究シーズ紹介	令和8年3月12日	融合研究域教員の研究紹介	26名	融合学域と合同開催
融合科学共同専攻FD研修会	令和7年12月12日	融合人材の育成等について意見交換	8名※他、JAIST教員6名	JAISTとの合同開催
ナノ生命科学専攻FD研修会	令和8年3月13日	教員のためのリスクマネジメント～ハラスメントの加害者とならないために～	10名	

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
------------	----

3	本研究科は、専攻毎にFD研修会等のFD活動を実施しており、各専攻では以下について実施した。 ・総合知創出科学専攻では、融合学域と合同でFD研修会や研究シーズ紹介等を開催した。FD研修会では教育方法改善等について意見交換を実施し、研究シーズ紹介では教員研究について相互理解を深めた。 ・融合科学共同専攻では、JAISTとの合同で対面開催し、融合人材の養成をテーマに、教育方法等について意見交換を行った。 ・ナノ生命科学専攻では、総合相談室の職員を講師に招き、ハラスメントからのリスクマネジメントをテーマとし研修会を実施し、活発に質疑応答が行われた。 令和7年度から、「新学術創成研究科の研究指導に関する目安」に基づき、学年の始めに、指導教員と学生との間で学位取得までの研究計画の策定及び進捗の確認について、運用を開始した。
---	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和8年度も引き続き、各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。また、授業評価アンケート及び修了者に対するアンケートの集計結果から、授業や教育計画、カリキュラム等についての意見や提案等について専攻及び研究科内で共有・検討し、教育活動の改善に取り組む。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学研究科(修士課程・専門職学位課程)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	(法学・政治学専攻) 大学院進学者を増やすため、他大学の取り組みを学ぶFD研修会を実施した。 (法務専攻) 組織的・継続的に可能な限りの取り組みがなされ、毎年改善がなされている。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 ・アンケート結果及び各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、弁護士との意見交換会を開催し、授業参観をした弁護士からの意見を聴取するなどする。(法務専攻) ・令和6年度に新設した高度専門職コース知的財産・リスク管理プログラム、及び令和7年度に新設予定のデータプライバシー・エキスパート養成プログラムにおける指導体制のあり方について引き続き検討する。(法学・政治学専攻)

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☒ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。(法学・政治学専攻) ☒ 英文での入力状況をチェックした。(法学・政治学専攻) ☒ 英文での入力を個別に依頼した。(法学・政治学専攻) ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。(法学・政治学専攻) ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。(法務専攻) ☒ 科目担当者間で共有した。(法務専攻) ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(法務専攻) ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(法務専攻) ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。(法務専攻) ☒ その他(弁護士による授業参観も実施し、意見交換会において、実際に参観した弁護士からの意見を聴取している(法務専攻))

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。(法務専攻) ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。(法務専攻) ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。(法務専攻) ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。(法務専攻) ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
法務専攻・法学類合同FD研修会	令和7年11月18日	法学類と法務専攻の連携強化のために 1.法曹養成プログラムについて 2.在学中受験について	29名	法務専攻、法学類共催
令和7年度意見交換会	令和8年1月14日	1.授業参観について 2.自主ゼミの実施状況について 3.中間アンケートの結果について 4.司法試験の合格率の向上に向けて	17名(教員11名、弁護士6名)	法務専攻
令和7年度FD研修会	令和8年3月10日	1.共通到達度確認テストの結果分析 2.未修者教育のあり方について 3.データにもとづく学生指導 4.修了生のサポートについて 5.答案添削・自主ゼミについて 6.履修者間の学力(法律の理解度)の差について 7.CBTトライアルの利用状況	11名	法務専攻

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	(法学・政治学専攻) 入学者増に伴い、授業評価アンケートの対象となる授業が増加した。結果について専攻会議で報告し、授業の改善に努めた。 (法務専攻) 組織的・継続的に可能な限りの取組みがなされ、毎年改善がなされている。上記のほか、筑波大学法科大学院との合同FD研修会、千葉大学法科大学院との合同FD研修会、4大学合同FD研修会も開催した。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

- ・授業評価アンケートの結果を教員間で共有し、授業改善に生かせるように検討を進める。(法学・政治学専攻)
- ・アンケート結果及び各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、弁護士との意見交換会を開催し、授業参観をした弁護士から意見を聴取するなどする。(法務専攻)

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 教職実践研究科

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域からなる新しい教育課程をスタートし、令和6年度はその完成年度にあたる。そのため、教務・FD委員会の下、全ての授業に対して「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、アンケート結果から各授業の学修成果等の分布を客観的に把握し、新教育課程の目標が首尾よく達成していることを確認した。また、令和6年度に教員養成評価機構の認証評価の受審にあたり、専門職大学院としてのFD活動の充実をはかり、以下の活動に取り組んだ:①「授業改善のための学生アンケート」をもとに、授業を学生主体となるよう改善を行った。②能登半島地震・豪雨災害における能登里山里海未来創造センター教育・人づくりWGのもとでNPO法人と連携した子どもの居場所づくりならびに学習支援を行った。③附属学校園コラボレーション推進室と連携しプロジェクトHESOに参加した。④「共生」に係る授業を中核とした公開研修会を実施した。⑤部局間協定校である米国コロラド大学コロラドスプリングス校との交流会ならびに実地研修引率を行った。⑥特別支援学校教諭専修免許の教育課程の初年度として、新設の授業及び学校実習を首尾よく実施するとともに、新しい評価基準を作成した。このような多面的・多角的なFD活動を展開することで、令和6年3月の認証評価結果では、基準(6-2)において、「教育研究上の目的を達成するため、教職大学院と学校教育学類が一体となった研究や附属学校園との協働研究が進められている。また、「令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チームKUD」のもとで、「金沢大学復興アクションプラン」に関わり、令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて、教職大学院として探究教育と共生教育にかかる研究に着手している点が評価できる。教職大学院独自のFD活動も計画的に実施されており、これらの活動は探究教育領域および共生教育領域に関連する研究を基盤に、教育の質向上を目指した取り組みとして評価できる。(一部抜粋)」と、研究科のFD活動が適切に実施されている旨の評価を受けることができた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画 学生主体の学修を重視しつつ、教務・FD委員会の下、全ての授業に対する「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、アンケート結果をもとに授業改善を継続する。令和7年度は完成年度を迎えた新教育課程をさらに充実・発展させるために、次の6点について新しい視点を取り込む:①社会に開かれた教職大学院をめざしてサービス・ラーニングの視点を取り入れ、通年型にわたるプロジェクト型の授業を推進する。②「オープン・ラボ」等の開かれた学びの機会を、通年型のプロジェクト型授業の中間に位置づける。③能登半島地震・豪雨災害からの復興のためにNPO法人との連携を推進する。④附属学校園コラボレーション推進室と連携を継続する。⑤プロジェクト型の授業を中核とした公開研修会を実施する。⑥新しい時代の教職の在り方を検討するため、研究科長裁量経費により、スクール・リーダーシップの専門家を招聘し、公開の国際セミナーを開催する。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☒ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☒ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☒ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。

- ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。
☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他(年度末に院生との授業懇談会を開き、意見聴取・交流し、教員間で共有した。)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
国際セミナー:「国際比較研究からみる学校でのリーダーシップ」	令和7年6月3日	世界中の「成功している学校の校長・リーダー」のあり方を研究する国際的共同プロジェクト創始メンバーであるChristopher Day教授(ノッティンガム大学)を招聘してセミナーを開催した。25カ国以上が参加した「学校におけるリーダーシップとマネジメント」に関する事例研究や理論について学ぶ機会となった。国際比較教育研究に関する授業の方向性を得た。	28名	
フォーラム:「被災地の子どもたちに寄り添う支援とは」開催	令和7年6月27日	東日本大震災及び能登地震における子ども支援の経験を踏まえ、災害時の子どもの権利保障と支援のあり方について議論を深め、これを通じた学びのあり方(授業内容・方法)についての示唆を得た。	34名	東北福祉大学(清水研究室)、東日本大震災子ども・若者支援センター、東洋大学福祉開発研究センターとの共催

オープンラボ2025:「子どもの未来を“つなぐ”ワークショップ	令和7年7月26日	通年授業;共生教育プロジェクトの主題に、近年、貧困・いじめ・ネグレクトなどの問題による不登校児童生徒の増加を取り上げ、この子らにとつての第三の場に焦点を当て、この場が持つ求心性とは何かを求めて、当事者による基調講演と関係者によるパネルディスカッション、これを受けて参加者によるワークショップを実施した。これにより、サービスラーニングのあり方への示唆を得た。	38名	
京都教育大学連合教職大学院との授業交流会及び、両校の教員によるカリキュラム検討会	令和7年9月1日～9月2日	当教職大学院授業「子ども社会と共生フィールドワーク」での実践活動の報告、及び、京都教育大学連合教職大学院授業「児童相談所と連携した実践活動」についての報告会と意見交流を実施した(9/1)。両大学教員によるカリキュラムと授業の比較・検討会を実施して、教育課題に即した有効な授業のあり方について意見交換した(9/2)。	35名(9/1) 8名(9/2)	
授業改善に関する院生と教員の懇談会	令和8年2月24日	1年間の授業を履修して、各授業の内容と活動、これとの関係で開講時期などについて、自由に意見交換した。これらの意見を今後のカリキュラム内容や形態、開講時期の検討に際しての材料とする。	教員3名 M1生9名	
教職大学院フォーラム2025における「共生教育プロジェクト」(サービスラーニング)の実施と成果報告	令和8年2月28日	年度末に開催している教職大学院フォーラムの全大会にて、通年授業「共生教育プロジェクト(サービスラーニング)」の取り組みと成果物、受講生の省察と所感を報告し、意見交流した。	126名	

〇照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
4	学生主体の学修を重視しつつ、教務・FD委員会の下、全ての授業に対する「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、修了者に対しては修了1年経過後の本人と所属長への学修成果評価アンケート結果を元に授業改善の努力を継続した。年度末には、院生とのカリキュラム、及び、各授業に関する懇談会を開催し、年間を通じた授業改善に関する意見聴取・意見交換会を実施した(2026/2/24)。 令和7年度は、完成を迎えた新教育課程(探究と共生をピークとした新カリキュラム;令和5年度より実施)をさらに充実・発展させるため、以下の活動を実施した。①社会に開かれた教職大学院授業としてサービス・ラーニングの視点を取り入れ、通年にわたるプロジェクト型の授業の成果について報告した(2026/2/28)。②「オープン・ラボ」等の開かれた学びの機会を、通年型のプロジェクト型授業の中間に位置づけ、③能登半島地震・豪雨災害からの復興のためにNPO法人との連携によるフォーラムを公開で開催した(6/27)。④プロジェクト型の授業を中核とした公開研修会を実施した(7/26)。⑤京都教育大学連合教職大学院の教員や学生との交流発表会(9/1)と両大学の教員によるカリキュラム検討会を実施した(9/2)。⑥新しい時代の教職の在り方を検討するため、研究科長裁量経費によりスクール・リーダースhipの専門家をノッティンガム大学より招聘して公開の国際セミナーを開催した(6/3)。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取り組みの計画について、具体的に記載してください。

教務FD会議の元、カリキュラムに関する院生との授業に関する懇談会を経て得た意見と要望、年4回実施している授業アンケート、及び、修了者と修了者の勤務先所属長による学修成果評価結果からは、概ね良好な評価を得ている。それらを元に、特に、今日的教育の課題に即しているか、授業内容の充実と効果的な授業形態、院生に過度な負担とならない授業運用に向けて検討を継続する。 特に、入学後にどれだけ院生の能力を伸長できたのかについての評価は、教育機関としての付加価値を決める観点となる。教職大学院の質の向上に向けた取り組みとして重要であり、喫緊の課題でもある。2年間の教職大学院教育の成果として、「教育実践研究の方法論」修得に焦点化した評価ルーブリックを試作・検討しているところであるが、この原案作成と修正検討を継続する。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(GS教育部門)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	GS教育系の所属教員は医薬保健, 理工, 社会科学や芸術まで全学術領域にまたがっている。その特性を活かし, アクティブ・ラーニングの手法, 成績評価方法や生成AIによる教育支援等, 学術領域を超えて共有する教育の課題を検討する活動を行なっている。令和6年度はGS教育系主催で, 4つのFD研修会を行なった。特に力を入れたテーマはAI関連であり, 「AIツールを利用した授業運営法とAIを用いた不正行為への対策」「生成AIを活用した教育支援の活用事例と実践方法」の2つを実施した。このほか「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目「学問への扉」の有効性と課題」「GS教育系各委員会報告会」も行なった。外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより, 共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。また, 「Open Class Week」として, 外国語系と共同で, 教員間の授業参観の試みを実施した。2週間にわたり合計29名の教員が55コマの授業を公開した。これらに加え, 担当教員間での自主的なFD活動が複数回実施されており, アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等, 授業改善に向けた効果的なFD活動を行なっている。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ, 令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について, 具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下, 令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について, 令和7年度の実施状況を選択してください。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について, 学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について, 確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について, 把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について, 分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について, 令和7年度の実施状況を選択してください。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を, 授業方法・カリキュラムの改善のために, どのように活用しましたか。なお, 一部のコース等で実施した場合は, 実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について, 該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。

	☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(希望者による授業公開を実施した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
新学習指導要領世代に対するGS教育一真の高大接続に向けて	令和7年5月29日	2022年度より実施の新学習指導要領世代に属する学生たちの大学教養教育における学びについて杉山欣也教員による報告	30名	ハイブリッドで実施
～多文化共修にむけて～ 「異文化意識と境界感覚:わかり合う前に立ち上がる『違い』に目をむける」	令和7年7月4日	山本志都・東海大学文学部教授による異文化意識への取り組みについての講演	25名	ハイブリッドで実施
生成AIを駆使したレポート作成指導とピアレビューの活用	令和7年10月3日	GS授業における生成AI利用例について三橋了爾、佐藤圭両教員による報告	31名	ハイブリッドで実施
MS365 Formsと生成AIを活用した授業支援の実践	令和7年11月13日	GS授業における効果的な生成AI利用とMicrosoft Formsの使用法について、八柳祐一教員による報告	25名	ハイブリッドで実施
Open Class Quarter	令和7年10月4日-11月21日	GS教育系、外国語教育系(英語科目、初習言語科目)合計119コマの授業公開	27名	イベント登録教員37名、授業公開教員27名
学びを動かし続けるアクティブラーニングの設計: 異文化間コミュニケーションの実践から	令和7年12月11日	GS授業におけるアクティブラーニングの実践例について小林恵美子教員による報告	32名	ハイブリッドで実施

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
------------	----

3	GS教育系の所属教員は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがっている。その特性を活かし、アクティブ・ラーニングの手法、成績評価方法や生成AIによる教育支援等、学術領域を超えて共有する教育の課題を検討する活動を行なっている。令和7年度はGS教育系主催で、5つのFD研修会を行なった。令和6年度に引き続いてAI関連に力を入れ、成績評価の方法としてAIを導入する試みと、Microsoft Formsの授業での使用法に関するものの2つを実施した。このほか、令和8年度からの多文化共修授業に関連しての取り組み、さらに、新学習指導要領への対応に関する研修会の実施など、時流に合わせたアップデートの機会を教員に提供した。また、外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより、共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。また、令和6年度以来続いている教員間の授業参観の試みについて、令和7年度は「Open Class Quarter」として第3クォーターを利用して拡大実施し、計27名の教員が119コマの授業を公開した。これらに加え、担当教員間での自主的なFD活動が「ランチ会」などの形で頻繁に実施されており、アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等、授業改善に向けた効果的な活動を行なっている。
---	--

【令和7年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

国際基幹教育院は、令和8年度から実施される「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」による多文化共修プログラムのコアを担う組織である。特に全学必修であるKUGS実践はその導入部分を担う。このため、効果的な英語授業の方法などについても、語学のプロである外国語系との連携を進めた積極的な取り組みを行っていききたい。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(外国語教育部門)

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	4	授業評価アンケートなどの結果を踏まえ、より教育の質的向上を図るために計画された教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部・未来教育創成環境教育企画部)のFD活動は予定通り実施された。 令和6年度に新設されたPractical Englishコースでは、TOEIC準備コースの大枠(共通シラバス・共通教科書・共通試験)は継続し、クリティカル・シンキングなどの要素を取り入れた、より汎用性の高い英語能力の養成を目指した。授業内活動を増やす変更として、反転授業を促す教科書の選定、共通「帯活動」の導入、成績評価における試験成績と授業内評価の比率の変更(8対2から7対3)が挙げられる。 EAP教育企画部は教員からのフィードバックや教育研究、学生の学習観察に基づき常にそのカリキュラムを刷新してきた。批判的思考や文献に基づく文書作成やプレゼンテーションなど、大学での学びに必要な基礎的な学術スキルの養成を明確な教育目標としている点やアクティブラーニングや学生に主体性を持たせる教育方法を取って初年次教育に貢献している。 これらの実現に大きな教員負担がかかり、その負担軽減もまた課題の一つであった。そのための方策として、令和6年度には、LMSで自動採点できる小テストを導入した。運用する過程で大学の基幹的ネットワークの問題が浮上したが、現場での対応により成績評価等への影響は回避された。 学術リテラシー教育企画部は、全学的な学術リテラシー教育の推進のため2年次以上を対象とする英語学術リテラシー科目5コース20科目を開発し、令和7年度の学域共通GS言語科目への開講に向けて、令和6年度は共通教育自由履修科目としてパイロット開講した。 初習言語教育企画部では、これまでの初習言語科目の開講形態を抜本的に見直した新カリキュラムの初年度であった。年度末には学生に向けて初習言語に関するアンケートを実施した。そのアンケートの報告と新カリキュラムに関する教員の意見交換、改善策の議論の場としてFD研修会を開催した。FDでの議論を踏まえて、初習言語教育企画部で新カリキュラムの細部を検証し、『共通教育初習言語カリキュラム要覧』に反映させた。加筆修正された『要覧』は関係教員に配布された。 外国語教育系では、生成AIの台頭を踏まえたFD研修会ほか、GS教育系との共催で開催された授業見学週間Open Class Weekでは、外国語教育系所属教員全員が授業を公開し、他部局・学類との連携した講演・研修会が複数件実施されるといった活発なFD活動が展開された。これらの多様なFD活動を活かして本学の外国語教育のさらなる深化を目指す。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。

	☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取り組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(期間を設け授業を公開した。)

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第1回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部主催)	令和7年7月25日	第1回EAPワークショップ	16名	
第2回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部主催)	令和7年9月10日・ 17日	前田広之・Ross Tulloch「英語読解問題作成セミナー: TOEIC Part 7 で学ぶ問題作成の視点と考え方」—実践編	12名	両日とも12名参加。オンライン開催。

国際基幹教育院 FD 活動 (GS 教育系・外国語教育系共催)	令和7年10月4日 11月21日	授業公開週間 Open Class Quarter	27名	イベント登録教員 37 名, 授業公開 教員 27 名, 開講授業数は延べ 119 件。
国際基幹教育院 FD 研修会／第 3 回外国 語教育系 FD 研修会	令和7年12月5日	中山裕木子講師(株式会社ユー・イングリッシュ 代表取締役)講演「英語教育と AI—上手な活用 方法を考える」	21名	オンライン開催。
国際基幹教育院 FD 研修会／第 4 回外国 語教育系 FD 研修会 (EAP 教育企画部主 催)	令和8年1月28日	Andrew Boon (東洋学園大学): Read It on the Internet, So It Must Be True: "Integrating Critical Thinking into the Language Classroom	16名	ハイブリッド開催。
第 5 回外国語教育系 FD 研修会 (EAP 教 育企画部主催)	令和8年2月2日	第 2 回 EAP ワークショップ	13名	
国際基幹教育院 FD 研修会／第 6 回外国 語教育系 FD 研修会	令和8年2月13日	阿部幸大 (筑波大学)「海外ジャーナルに挑戦 するために」	16名	ハイブリッド。教員16名に加え学 生10名参加。
第 7 回外国語教育系 FD 研修会 (初習言語 教育企画部主催)	令和8年2月16日	趙秀敏 (東北大学) 教育 DX に向けた東北大学初 修中国語ブレンディッドラーニングの取り組み—オ ンデマンド動画とスマホアプリによるオンライン授 業の導入と教育効果	23名	オンライン開催
国際基幹教育院 FD 研修会・シンポジウム 「AI 時代の情報メディア・リテラシー」(未来創 成教育環主催・国際基幹教育院共催)	令和8年3月25日	「初等教育におけるメディア・リテラシー」 佐藤和紀先生 (信州大学教育学部准教授) 「高等学校における DX:AI を利用した英語教育」 河内聡一郎先生 (金沢二水高等学校校長) 「大学教育における情報リテラシーと学生の AI 使 用」森祥寛先生 (金沢大学学術メディア創成センタ ー助教)	58名	オンライン開催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6—1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	授業評価アンケートの結果や、各教育企画部における会議での議論・検討内容等を踏まえ、より一層の教育の質的向上を図ることを目的として計画された教育企画部の FD 活動が、予定通り実施された。具体的には、EAP 教育企画部、国際試験教育企画部、初習言語教育企画部、未来教育創成環教育企画部がそれぞれの教育課題や到達目標に応じた研修会、意見交換会、公開授業等を企画・実施し、教員間で教育実践や課題意識を共有する機会を設けた。これらの FD 活動では、授業改善に資する具体的な方法や、学生の学修成果を高めるための評価方法、さらに多様な学習者のニーズに対応した授業設計について検討が行われた。またアクティブラーニングの導入・充実、学生が主体的に考え、協働しながら学ぶことのできる学習環境の整備、ならびに生成 AI 時代に対応した教育内容・教育方法の開発についても議論が深められた。上記の多様な研修会および公開授業を通して、本学における外国語教育のさらなる深化と改善を目指すとともに、各教育企画部が相互に連携しながら、教育実践の質を継続的に高める取り組みを進めている。今後も、授業評価アンケート等から得られる学生の声や、教員間の実践的な知見を活用しながら、時代の変化に対応したカリキュラムの設計・開発に取り組み、学生の主体的・自律的な学びを支援する教育体制の充実を図っていく。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

6—2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学術メディア創成センター

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分について、令和6年度担当内容についてメールやslack等を用いてお互いの授業について情報共有し即座に授業改善に役立てられたこと、令和7年度に向けて本センター教員全員で講習ができたことから、概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☐ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☐ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。

	☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
--	---

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
データサイエンス基礎 授業実施説明会	令和8年3月19日	次年度データサイエンス基礎の授業実施に向けた研修会	7名	
学内シンポジウム:学術メディア創成センターによるソーシャルインパクト創出事業の取り組み	令和8年3月5日	ソーシャルインパクト創出事業の取り組みの一環として、多文化共修を目的とした授業実践例	50名	金沢大学FD委員会共催

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	データサイエンス基礎の授業のなかで、本センターが担当している部分について、研修会を実施し授業内容の確認、共通化を図った。メールやslack等で授業状況を共有することで、他の教員が即座に改善点を反映できる体制も整っている。その他、年度初めの全学FD研修会-新任教員説明会では講師を担い、ソーシャルインパクト事業に関連したシンポジウム(金沢大学FD委員会共催)内では多文化共修を念頭に置いた授業に関する講演を行った。毎月行っている教育DXサロンでは生成AI活用や高校の授業「情報」に関する知見共有など、学外を含めた教員のFD活動に貢献しており、概ね評価できる。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取り組みの計画について、具体的に記載してください。

--

令和7年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際日本研究教育センター

参考資料:「令和6年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和7年度に向けた改善計画		
自己評価	令和6年度の自己評価	総評
令和6年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際日本研究センターは、留学生や日本人学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受入プログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。特に令和6年度後半には、ソーシャルインパクト事業に採択されことにより、事業の核となる「国際共修」を推進すべく、令和7年度の取組に向けたFD活動として、各担当分野の教員が経験を基に活発な意見交換を重ねた。
授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和7年度に向けた改善計画

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和7年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 3つのポリシーの運用状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①3つのポリシーの記載内容の確認	☐ 3つのポリシーの記載内容について、学生に周知した。 ☐ 3つのポリシーの記載内容について、確認した。 ☐ その他()
②DP(Diploma Policy)に掲げた学修目標の達成度の把握	☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、把握を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度について、分析を行った。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を共有した。 ☐ DPIに掲げた学修目標の達成度の分析結果を改善に活用した。 ☐ その他()

○照会事項2 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項3 授業方法・カリキュラムの改善のための取組等の実施状況

3-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。(総合日本語プログラム) ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(総合日本語プログラム) ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(総合日本語プログラム) ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()

②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()
-----------------------	--

3-2 下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(授業記録の活用(総合日本語プログラム))

○照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和7年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。(総合日本語プログラム) ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(評価の妥当性について、各科目で検証した(総合日本語プログラム))

○照会事項5 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和7年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
多文化共修科目についてのFD	令和8年2月13日	新規開講科目「多文化共修」を担当するセンター所属教員全員が参加し、多文化共修(国際共修)についての定義や授業の進め方、および教育ツールの活用についての理解を確認した。	9名	自らが担当する科目についての学習到達目標と評価方法について考える機会を得た。その成果はシラバスにも反映されている。
国立大学における交換留学生受け入れに関する情報交換会	令和8年3月4日	千葉大学と金沢大学の留学生受け入れ実務担当者(教員2名および事務職員4名)が出席し、それぞれの大学における留学生受け入れの状況と課題について報告した後、今後の受け入れ体勢と教育について意見交換を行った。 *千葉大学国際教育センターからの依頼により実施 本情報交換会の詳細および資料についてはセンター内教員に共有し、意見交換を行った。	6名	ほぼ同規模の留学生受け入れを行っている大学同士の情報共有ができた。千葉大学の担当者からは、来年度以降もさらに課題を絞り込むなどして再度実施したい旨、連絡があった。

○照会事項6 令和7年度FD活動の自己評価及び総評

6-1 貴部局等での令和7年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和7年度の自己評価	総評
3	国際日本研究教育センターは、留学生や日本人学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受入プログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。令和7年度には、ソーシャルインパクト事業における「国際共修」推進の一環として、令和8年度開講予定の多文化共修科目(オムニバス形式)の担当教員全員によるFD研修会を実施した。シラバス・評価方法の確認および効果的な授業運営に関する活発な意見交換を通じて、教員間の連携を深め、組織的な教育改善に向けた基盤を整えることができた。

【令和7年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

6-2 授業評価アンケート及び令和7年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和8年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組みの計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートの集計結果をセンター内で共有・分析するなどし、科目担当者間での改善策の検討につなげる。令和7年度に実施した多文化共修科目FD研修会の成果を活かし、令和8年度開講の多文化共修科目において、シラバスや評価基準の一層の明確化・統一化を図る。留学生・日本人学生双方の学修成果を把握・分析するための評価方法を検討するとともに、担当教員間の定期的な情報共有の場を設け、継続的な授業改善と教員の教育能力向上に取り組む。